

名古屋市緑区役所徳重支所等共同ビル

ユメリア徳重 完成

名古屋市が提案競技を実施し、民間のノウハウを活用して緑区鳴海町字徳重に建設してきた緑区役所徳重支所等共同ビル(愛称・ユメリア徳重)が完成、5月6日にオープンする。事業者は愛発開発を代表に青島設計、安藤建設で構成するグループ。地下鉄6号線延伸開業を機会に控え、成長する緑区東部の拠点施設にふさわしい夢のある複合ビルをつくり上げた。

5月6日オープン



区民プラザ

設計

子供たちが、パレットの上で自由に絵の具をまぜて遊ぶ光景を見たことがあるだろうか。ユメリア徳重は、区民の活動、緑、環境デザインが生み出す新たな彩りを融合する空間をめざしている。

区民が彩る活動に期待

公共エリアは区民プラザを中心に緑区の支所、図書館、地区会館、保健所がリニアに配置されており各施設が一目で認識できる。区民プラザは施設を訪れる年代や目的の違う

街に新たな彩りを与えるコンセプトを提案

人々が出会い、また区民の活動の場として用意されている。ウェーブするカーテンウォールはゆるやかに活動エリアをわけ、自由に可変できる家具が区民の活動をサポートする。

また、民間エリアは、現在工事中の地下鉄・バスターミナル及び商業施設と連続する計画となっている。公共と民間が共存し生み出される彩りの街は、コンパクトシティー構想のモデルケースとなることが期待される。

環境が彩るエコ・デザインをめざす

市街化に伴う自然環境の消失。我々は常にこの矛盾に直面している。この場所にはかつて豊かな緑がありそれが緑区と呼ばれる由縁であったと聞く。今計画においてもこの場所にあった緑を、そして環境を再生できないか考えた。緑化計画は「経年美化」をテーマに

1年を通して楽しめる緑を計画。東側に計画した里山はこの地域に多く生息する樹種を選定している。また、区民プラザは環境装置として計画した。カーテンウォール上部にある窓を開閉しブラインドを操作することにより建物に入る日射熱を速やかに排出することで極力空調しない空間を実現している。

カーテンウォールに組み込まれた壁面緑化は、ガラスにはさまれた太陽光発電セルの動力で水をくみ上げ、重力で自然落下する灌水システムで維持されていく。自然の力で循環・維持する思想を提案することで建物に生命力を与えたいと考えた。さらに、アースチューブ(地熱利用)、太陽光発電、雨水利用、屋上・壁面緑化など、自然の力を利用した建物をめざしている。

青島設計 旗手 康信

成長する地域を結ぶ新拠点が誕生

ごあいさつ

名古屋市長 河村 たかし



区民と行政の協働の場に

名古屋市で最も人口の多い緑区においては、かねてより区役所支所の開設が切望されておりましたが、このたび、多くの皆様のご協力をいただき、「ユメリア徳重」が完成いたしました。区役所支所だけでなく、地区会館や保健所分室などの公共施設、銀行などの民間商業施設を併設することで市民サービスの充実に繋がるものと考えております。

「ユメリア徳重」の施設整備にあたりましては、民間事業者が持つ総合的な企画力、設計・施工に関するノウハウを活用するため、提案競技を実施いたしました。その結果、随所に緑を配置したデザインをはじめ、太陽光発電や雨水利用など、自然エネルギーを積極的に活用することで、冷暖房のいらぬまちづくりをすすめる本市にとってふさわしい施設となりました。

また、地域の交流や活動を育むスペースとして「区民プラザ」を設けました。この区民プラザは、ボランティアの皆様のご協力によって運営される、地域住民による地域住民のための場所となりました。

さまざまな機能を兼ね備えたこの「ユメリア徳重」が、市民サービスの拠点、区民と行政の協働の拠点として、成長著しい緑区を支えていくものになることを大いに期待しております。

ユメリア徳重は区役所支所、地区会館、保健所分室、図書館などの公共施設と民間商業施設、駐車場が一体となった複合ビル。事業スキームは、名古屋市が提案競技を実施し、選定された愛発開発グループが全体

事業概要

民間ノウハウを活用

の設計、建設を行い、完成後に市が公共施設部分を取得する方式。運営は市と民間がそれぞれ行う。同グループの提案は曲線壁面を採用した新鮮なデザイン、区民プラザからの動線を工夫した施設配置、緑化、環境への配慮などで高い評価を受けた。

建築概要

- 名称/緑区役所徳重支所等共同ビル(愛称・ユメリア徳重)
- 所在地/名古屋市緑区鳴海町字徳重
- 敷地面積/10,048㎡
- 建築面積/5,803㎡
- 延べ床面積/12,954㎡
- 構造・規模/S造4階、S造2階(駐車場棟)
- 事業者グループ/愛発開発(代表法人)・青島設計(設計監理担当)・安藤建設(施工担当)
- 工期/2009年3月~2010年3月



優美な曲線を描く壁面



体育室



事業者グループ／菱晃開発(代表法人)・青島設計(設計監理)・安藤建設(施工)

施工

「ユメリ」構想は、協議を繰り返しながらの
名古屋緑区鳴海町字藤 工事になった」と振り返る
敷地の約1万平方メートルに

建設された周辺では、地
下鉄線通線の延伸工事
これに伴う道路の拡幅と、同線通線の駐
の建設、土地区画整理
業、商業施設の整備など
が進んでいる。

施工を担当した安藤建設 いるのが特徴だ。それだけ
設の高橋信作理事長は「各工種間の精度が要求
「各工種間でうまくまな された。その上、壁面や
調整が必要だった。現場 職士にもボット式緑化を
外でも、大勢の人たちと 厚すなど、環境に配慮し
た。

た建物になっている。

本格的な工事着手は09 感度の施工や、工事車両
年4月。比較的良好な地 の出入りに細心の注意を
確保基盤を併用した。鉄 無事完成を迎える高橋
骨格の方、く体、仕上げ 所長は「当社も含む菱晃
工事へと進める中で、最 開発グループの提案が採
も気を通ったのは複雑な 用された事業であり、区
壁面曲線に対応したカー 役所や所や地区会館、保
テンウオーの収まり 場所分業、図書館といっ
と、コンクリートの品質 た多彩な施設が入るだけ
確保。また、南面の外構工 に、地域の皆さんからの
事はポリウムがあり、期 待も大きかった。短期
壁面の施工と上下で同時 間で塗り上げていくとい
る制約はあったが、やり がいのある仕事だった」と
と語る。

複雑な曲線壁面の精度向上を追求



区民ふれあい花壇（ルーフトラス）